

佐々木健成

映像と舞台の演技の違いに関する研究

—4つの演技理論から考える演技の本質—

要旨

本研究は、映像演技と舞台演技の違いについて、スタニスラフスキー・システム、メソッド演技、チェーホフ・テクニク、マイズナー・テクニクという四つの主要な演技理論を基盤に分析し、演技の本質を明らかにすることを目的とする。舞台は俳優と観客が同一の時間・空間を共有するライブパフォーマンスである一方、映像はカメラによって演技が記録・編集される断片的なメディアであり、両者は異なるメディア特性を有する。本研究では、文献研究に加え、舞台・映像の経験を持つ俳優5名へのインタビュー調査を実施し、理論と実践の両面から検討を行った。その結果、舞台では身体性や空間への働きかけ、観客との即時的な共鳴が重視され、映像では感情の連続性や表情・視線といった微細な表現が重要であることが明らかとなった。一方で、両者には「俳優の内面性」と「観客との感情的共鳴」という共通の本質が存在することも確認された。本研究は、演技理論をメディア特性に応じて再解釈する視点を提示し、俳優教育および実践への応用可能性を示すものである。